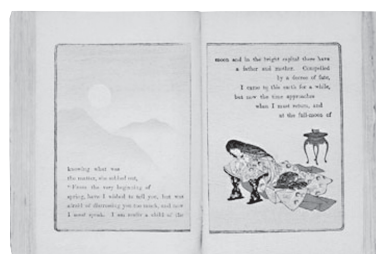


わたしの好きな昔話（18）

『竹取物語』（ちりめん本）



北詰 也紗



今年、富士山が世界文化遺産に登録され、テレビも新聞も連日この話題でもちきりでしたね。静岡県出身の私にとっては非常にうれしいニュースとなりました。皆さんは、ちりめん本の中に、富士山という名称の由来となった話があるのを知っていましたか。「昔々竹取の翁ありけり…」という冒頭でおなじみの、『竹取物語』です。古典の教科書にも載っているため、見覚えがあるのではないのでしょうか。今回はこの『竹取物語』について紹介したいと思います。

《昔々、竹取の翁が竹林で光る竹の中から見つけ連れ帰った小さな精は、美しく気品ある娘へと成長し、「かぐや姫」と呼ばれた。姫の噂を聞いた多くの身分ある男性が彼女を妻に望んだが、断るために彼女は難題を課し、それをこなした人はいなかった。姫は月からこの世に来た者で、次の満月の夜には月へ帰らねばならないというので、姫と文を交わすことを愉しみに暮らしていた帝は、満月の夜、翁の家を武士に守らせたが、姫は翁夫妻にお礼の文を、帝に文と不死の薬を残し月へ帰った。帝は姫のいない世に不死の薬は必要ないと、天に一番近い山で焼かせ、この山が「不死山」と呼ばれるようになった。（京都外国語大学付属図書館ホームページより）》

この話によると富士山の名称は「不死の薬を山の頂で焼いた」ことが由来だそうです。他にも、富士山の名称の由来は諸説あります。「不二の山、つまり唯一無二の山」から富士山と呼ばれるようになった。山の頂の雪が絶えないことから「不尽山」と呼ばれるようになったなど。皆さんはどの説を信じますか。私は『竹取物語』の説を信じたいです。これが本当に富士山の由来であるならば、非常にロマンチックだと思います。私は富士山の麓に位置する富士市出身で、『竹取物語』の舞台だといわれる竹林が近くにあり、私の住む地域では、毎年、「ミスかぐやひめコンテスト」が行われたり、「かぐやひめ号」という名の列車が走っていたりと、『竹取物語』にまつわるものが数多くあります。だから、昔からこの物語を身近なものに感じていました。日本が世界に誇るべき富士山と『竹取物語』にこのような縁があったなんて素敵ですね。

この夏、世界文化遺産に登録されたことで、富士山には例年以上の観光客が訪れたそうです。富士山を訪れる際には、ぜひ『竹取物語』の話を思い出してみてください。きっと一味違った楽しみ方ができるとと思います。

きたづめ ありさ（日本語学科4年次生）